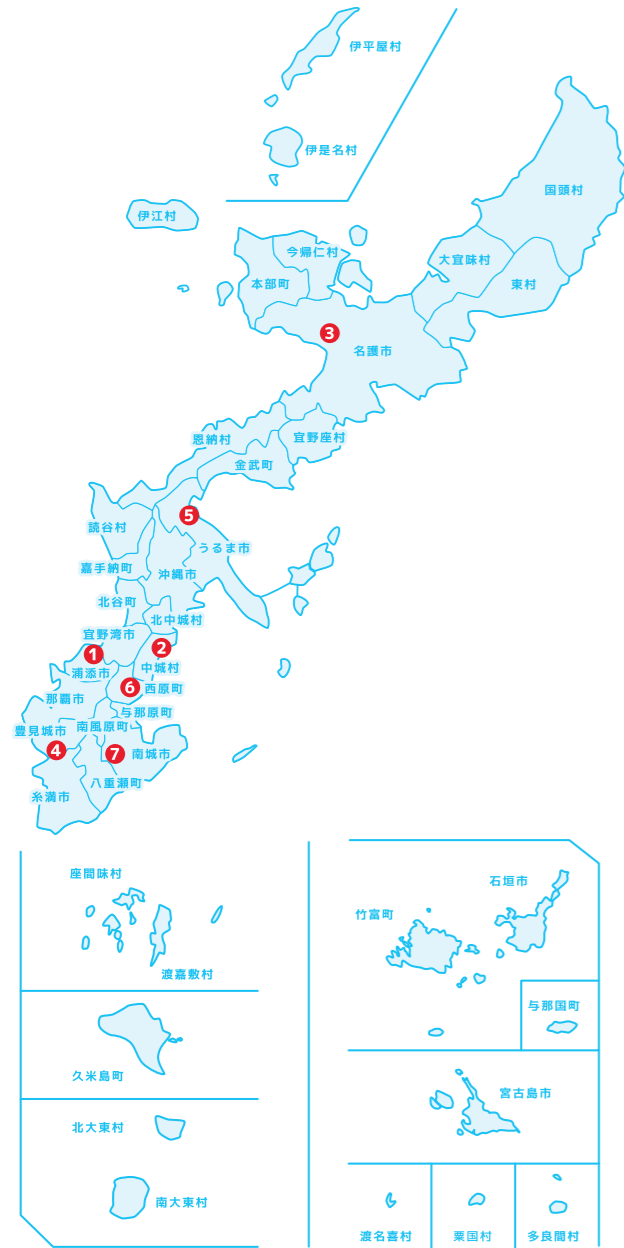


沖縄コカ・コーラボトリング事業所マップ

沖縄全県7事業所から皆様に「さわやか」をお届けします。



1 本社

〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖 5-14-1
 離島営業課 TEL(098)877-9356 フードサービス営業所 TEL(098)877-5373

2 中部営業所

〒901-2405 沖縄県中城村字屋宜 286
 TEL (098)895-5191

3 名護営業所

〒905-0012 沖縄県名護市大北 1-23-35
 TEL (0980)52-2255

4 豊見城営業所

〒901-0231 沖縄県豊見城市字我那覇 493
 TEL (098)850-1029

5 うるま営業所

〒904-1115 沖縄県うるま市石川伊波 1472-1
 TEL (098)965-7000

6 チェーンストア営業所

〒903-0103 沖縄県西原町小那覇 343
 TEL (098)944-2011

7 機器サービス部

〒901-0617 沖縄県南城市玉城字愛地 727
 TEL (098)949-7882

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



美ら島のために、美ら島とともに
 それが沖縄コカ・コーラボトリングの想いです。

会社概要

社名 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社
 Okinawa Coca-Cola Bottling Co.,Ltd(コカ・コーラ指定会社)

設立年月日 昭和43年2月22日

本社所在地 〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目14番1号

資本金 4億円(平成26年3月現在)

決算期 12月

従業員 281名(平成26年3月現在)

販売地域 沖縄県

事業内容 コカ・コーラ、スプライト、ファンタ、ジョージア、アクエリアス、
 い・ろ・は・す、爽健美茶、綾鷹、煌(ファン)、紅茶花伝、
 茶流彩彩さんびん茶等の清涼飲料水の製造販売

関係会社 株式会社 丸にホールディングス
 株式会社 琉仁カスタマーサービス

役員 代表取締役社長 高橋 俊夫
 (平成26年3月現在)
 専務取締役 城 英俊
 取締役 渡邊 淳
 取締役相談役 高梨 圭二
 取締役 中野 泰三郎
 監査役 増田 浩之
 常務執行役員 城間 康範
 執行役員 上村 行弘
 執行役員 新井 英寿
 執行役員 加島 純

事業所 ●本社 ●浦添工場 ●機器サービス部
 ●名護営業所 ●うるま営業所 ●中部営業所 ●豊見城営業所
 ●チェーンストア営業所 ●フードサービス営業所

お問合せ ●コールセンター TEL(098)877-5255 (平日9:00~17:00)



本冊子は環境に配慮し再生紙と植物油
 インキを使用しています。

CONTENTS

- P03 トップメッセージ
- P04 環境理念・環境方針
- P05・P06 【水資源保護】
水を守るためにコカ・コーラが
できる5つのこと
- P07・P08 【環境負荷軽減】
地球への想いが、あしたに
つながる。
- P09・P10 【人材(次世代)育成支援】
次世代を担う子どもたちの
「今」を熱くバックアップ!
- P11・P12 【地域イベントへの協賛・協力】
スポーツも! イベントも! 笑顔が
生まれる時を心から応援
- P13 災害対応型自動販売機
- P14 1本からはじまる支援の輪

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社の歴史
会社概要

この冊子の編集方針について

このCSRレポートでは、私たち沖縄コカ・コーラ
ボトリングが2013年3月15日～2014年3月14日
までの間に行ったさまざまなCSR活動(企業の社
会的責任)を紹介しています。たとえば、沖縄の企
業市民の一員として行っている地元の皆様や地
域社会とのふれあい、イベントやスポーツ大会に
おける支援活動、森や海などの沖縄の美しい環
境を守る努力や次代を担う子どもたちへの環境
教育などを記載しました。イラストや写真、チャ
ートなどを使い、多くの方にご理解いただけるよ
う見やすくわかりやすい内容を心がけています。

本レポートのご意見・ご感想は下記までお寄せください。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社(コカ・コーラ指定会社) CSR推進課
〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目14番1号
TEL(098)877-5269 FAX(098)877-5340



大好きな沖縄のために、社員一人ひとりが
努力と行動を続けます。

私たちは「市場」「環境」「社会」「職場」の4つの領域の中で
7つの取り組みを積極的に行っています。



飲料価値 活動的/健康的な生活習慣 温暖化防止・エネルギー削減 サステイナブル・パッケージ(持続可能な容器) 水資源保護 地域社会 職場



トップメッセージ

TOP MESSAGE

「ワシタ チムグクル」の精神で
 地元扎根し、県民の皆様に信頼され
 親しまれる企業をめざします。

当社は、本土復帰前の昭和43年2月に沖縄県を対象エリアとして、清涼飲料水を製造・販売することとなりました。沖縄県民と共に発展することを念頭に「いつでも、どこでも、だれにでも、爽やかさをお届けする」を合言葉に、お取引先様、多くの県民のみなさまに支えられ、今年で46年を迎えます。

グローバルな取り組みとして、ザ コカ・コーラカンパニーが協賛しているグローバルなスポーツイベントにも沖縄コカ・コーラボトリングもコカ・コーラシステムの一員として営業エリアでの事業活動を通じて大会を盛り上げていきます。

一方、沖縄県においては、創業者 故 高梨仁三郎による「人に喜びを与え、一緒に幸福になるう」という創業の想いの下、経営理念「ワシタチムグクル」を掲げてきました。時代とともに変貌と成長を成し遂げ、今後も先人たちの夢と熱意を継承しながら、地域の発展に寄与できる企業として、発展・成長を目指します。

2013年は、食品に対する安全性を脅かす農薬混入事件や食品の信頼性を失わせる食材偽装事件が報道されました。食品を扱う企業として社会に対する使命と責任の重要性を改めて痛感しております。

当社は「安全・安心」な製品とサービスを通して、「お客様に満足」を提供して参ります。地域をうるおしながら、企業市民として「人材育成」「環境教育」「文化・スポーツ支援」「地域社会貢献」を通じ、「地域社会と共に歩む」こととともに、社員にとって「働きがいのある会社」を目指して事業活動を行って参ります。

環境への配慮につきましても、サステナブル・パッケージ容器の積極的な展開と地元の水資源保護、昨年より導入しております「ピークシフト自販機」に力を入れて参ります。

これからも、沖縄県に根ざす企業として、製品の原料・資材等に地元企業の県産品を使用することを通して地域に貢献しつつ、持続可能な社会の実現を目指して参ります。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

代表取締役社長 **高橋俊夫**

ワシタチムグクル 私達の経営理念

お客様に満足
 私達は、お客様を最優先に考え、満足を提供し会社の信頼を得ます。

地域社会と共に歩む
 私達は、企業の安定成長をはかり、地域社会の繁栄に貢献します。

働きがいのある会社
 私達は、健康で明るく活き活きとした働きがいのある会社になります。

大切に守りたい、 わした島の豊かな自然。



わたしたちの環境理念

沖縄コカ・コーラボトリングは、コカ・コーラシステムの環境方針に従い、コカ・コーラシステム各社とともに、地球規模の環境保全の重要性を認識し、地域における環境の継続的な改善を推進します。

わたしたちの環境方針

沖縄コカ・コーラボトリングは、当社の事業活動が環境に与える影響を理解し、持続可能な社会を目指すため、環境マネジメントシステムを導入し、全従業員参加のもとに以下の施策を中心に取組みを行い、環境目的・目標を設定するとともに、定期的な見直しを図ります。

- 当社に適用される環境関連法規制及び関連する会社の行った協定、約束について遵守します。
- 沖縄県において、持続可能な地域社会の構築を目指します。
- 当社の日々の活動で発生する環境負荷を低減するような活動に取り組みます。
- この方針を当社で働く全従業員に周知し、継続して事業を展開する地域社会の経済的発展を促進する取組みを行います。

2012年5月制定

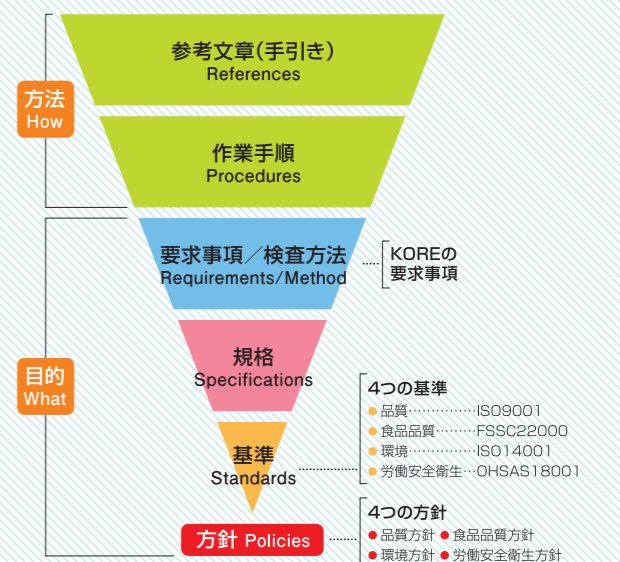
マネジメントシステム「KORE(コア)」

コカ・コーラシステムは、2010年より世界共通で「KORE (Coca-Cola Operating Requirement)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を經過お客様に製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています。オペレーションのチェック機能は、審査登録機関による各要求事項へのパフォーマンス測定が少なくとも年1回行われており、社外第三者からの客観的評価が加わることで、マネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

KORE Coca-Cola(KO)* OPERATING REQUIREMENTS

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント

マネジメントシステム「KORE」の構造



*「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称

水を守るためにコカ・コーラができる5つのこと



もっとも大切な安心・安全のために

厳格な基準に基づく排水管理

清らかな水がなければ、私たちの製品は生まれてくることができません。コカ・コーラシステムでは、2006年より世界各国で排水管理の取り組みを強化しています。工場から排出される工程排水・雨水・汚水など、すべての排水に対し、水質汚濁防止法や下水道防止法など、国内の水質基準と「KORE」の要求事項のどちらかより厳しい方の基準を適用しています。



汚水貯水槽



排水流入槽

汚水は、約50tの処理能力を持つ処理層で一旦ろ過され、さらに微生物浄化槽で、コカ・コーラシステムの厳しい自社基準値まで浄化した後、施設外へ排水されます。

水の効率利用・水質管理のために

再利用水施設

1Lの製品が完成するまでに使用する水量は、平均3.93L(2013年実績)。製品自体の他に、工場の配管内や容器の殺菌工程などで使用される水が必要とされるためです。当社浦添工場では、洗浄工程における水の使用量管理を徹底。洗浄などで使用した水は、再利用施設で浄化し、冷却水や床の洗浄水などとして、可能な限り再利用する循環システムを実現。水の使用量をできる限り減らす取り組みを推進しています。

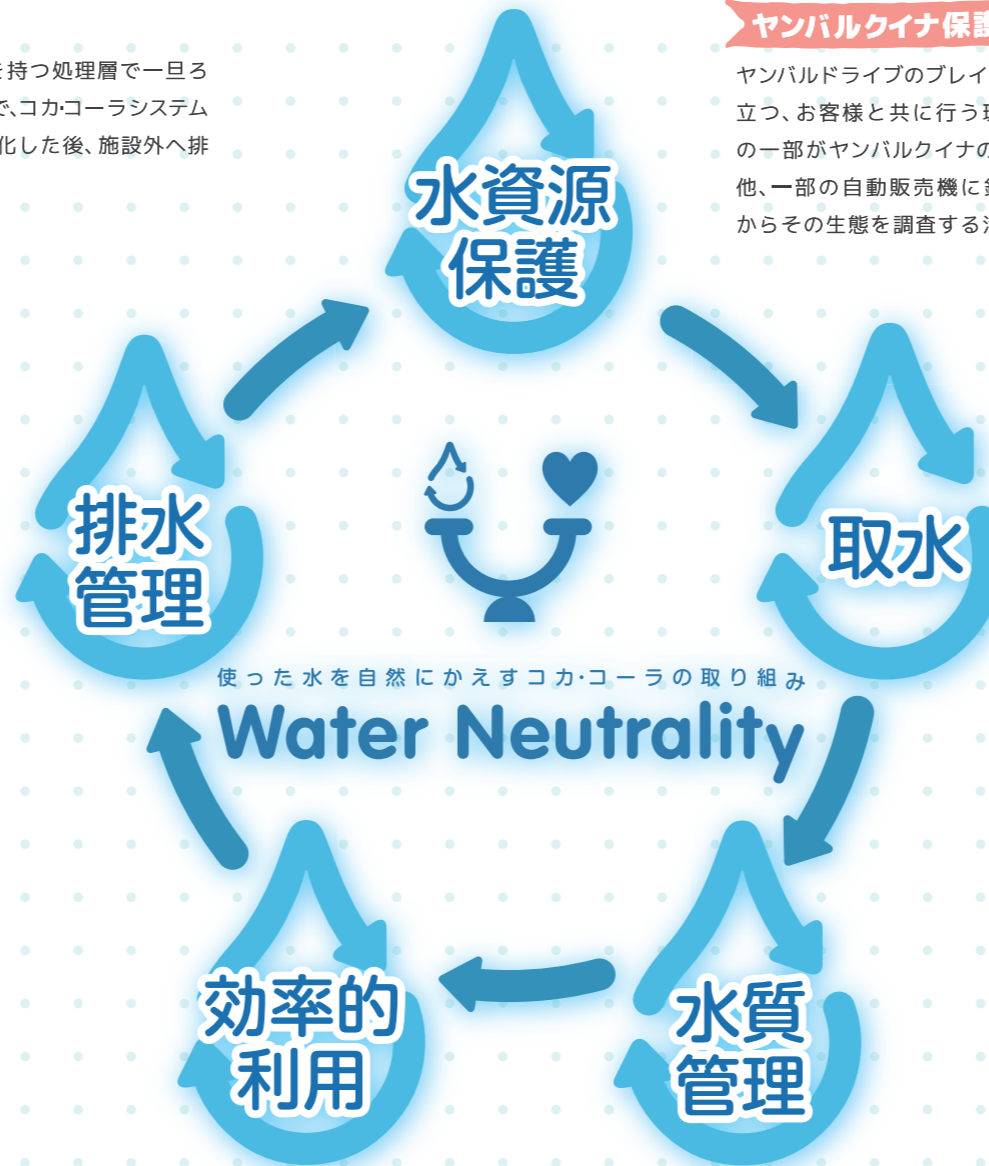
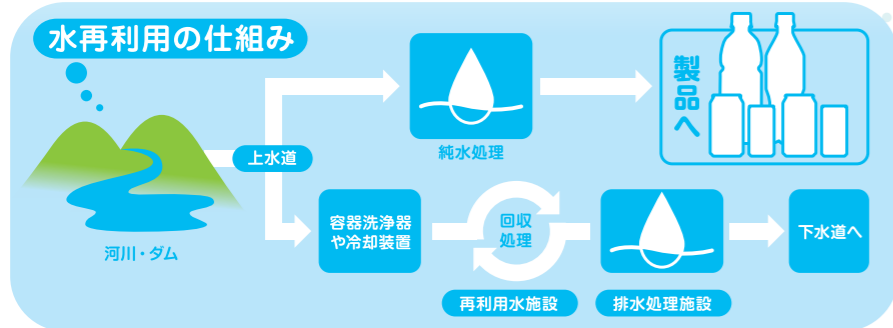


RO逆浸透ろ過膜



砂・活性炭ろ過器

容器洗浄器や冷却装置に使用した水は、再利用水施設の3つのフィルターで浄化し、効率的に再利用されます。



水源を守り、大切に水を
コカ・コーラシステムでは、日本全国
目標は、製品に使った量と同じ
つまり、「WATER NEUTRALITY(ウォーター・ニュートラリティー)」の実現です。
工場の中から地域の自然まで、

使って、キレイに戻す。
で水資源保護に取り組んでいます。
量の水を自然に還元すること。
ター・ニュートラリティー)の実現です。
私たちの活動は広がっています。

ヤンバルクイナの保護と水源保護活動

ヤンバルクイナが暮らす森は、清らかな水をたたえる森。そこで私たちは、絶滅危惧種であり、国の天然記念物に指定されているこの鳥が住む沖縄本島最大の水源であるヤンバルエリアで、希少生物の保護活動に努めています。

ヤンバルクイナ保護応援自動販売機

ヤンバルドライブのブレイクタイムが水源保護に役立つ、お客様と共に行う環境活動です。売り上げの一部がヤンバルクイナの保護活動に寄付される他、一部の自動販売機に録音機を搭載し、鳴き声からその生態を調査する活動を行っています。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト



コカ・コーラシステムでは次代の地球を担う子どもたちを対象に、水の源である森林について「知る」、森林の大切さを「学ぶ」、植樹・育樹を通して「体験する」ことで、地球市民としての意識を高め、自然保護の重要性を理解してもらうことを目的としてこの活動に取り組んでいます。当社ではコカ・コーラシステムの一員として2006年のスタート時から、沖縄本島最大の水源であるヤンバルエリアにて、フィールド学習を行っています。



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト実績

開催時期	開催地	植樹本数	ボランティア数
2006年 11月	国頭村	約2,000本	約500人
2007年 6月	やんばる学びの森周辺	育樹(除草・追肥)	約200人
11月	国頭村県道2号線入口付近	約500本	約400人
2008年 11月	国頭村くいなパークゴルフ場周辺	約600本	約400人
2009年 11月	大宜味村 大保ダム	約500本	約500人
2010年 11月	国頭村くいなパークゴルフ場周辺	育樹(除草・追肥)	約150人
2011年 6月	大宜味村 大保ダム	約300本/種蒔き約800粒	約500人
11月	大宜味村 大保ダム	育樹(除草・追肥)	約140人
2012年 9月	大宜味村 大保ダム	苗木45本、種2,000粒	約400人
11月	大宜味村 大保ダム	育樹(除草・追肥)	約50人
2013年 8月	大宜味村 大保ダム	苗木120本、種2,000粒	約410人
12月	大宜味村 大保ダム	苗木200本、種2,000粒	約310人

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトホームページ <http://www.cocacola.co.jp/morimana/>

地球への想いが、あしたにつながる。



電力削減95%! ピークシフト自販機

2012年、電力使用ピーク時の消費電力削減を目的に開発された「ピークシフト自販機」が登場しました。最も電力を消費する夏季の日中に、冷却用の電力を使用せず、消費電力を95%削減しながら16時間もの長時間にわたって冷温の製品を提供することが可能となりました。また2011年より導入したノンフロン化自動販売機で、一部の特殊機材を除くヒートポンプを採用、これによりシステム全体でCO2排出量45.5%削減(2004年比)を目標として掲げています。沖縄ココ・コーラボトリングでは、2013年106台設置しました。



「ピークシフト自販機」が省エネ大賞最高賞「経済産業大臣賞」を受賞

日本ココ・コーラ株式会社は、「ピークシフト自販機」の開発・普及によるココ・コーラの更なる節電対策の取組みが評価され、ココ・コーラシステムを代表し、平成25年度省エネ大賞省エネ事例部門において、最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞しました。ココ・コーラの自動販売機におけるピーク時の節電対策が省エネ大賞を受賞するのは、昨年度に続き、2年連続となります。



廃熱再利用によるCO₂削減!

従来、工場でのボイラー設備への給水は、廃水再利用設備で処理された冷水を使用してきましたが、工場内で発生した温水を再利用するボイラー給水加熱ユニット導入により、ボイラー燃焼時のエネルギーを抑えることができ、年間石油資源(重油)を40トン削減するとともに、CO₂の発生を15トン削減する改善を実現しました。これからも、たゆまず現状を見直し、創意工夫を図り、環境負荷への軽減を実現していきます。



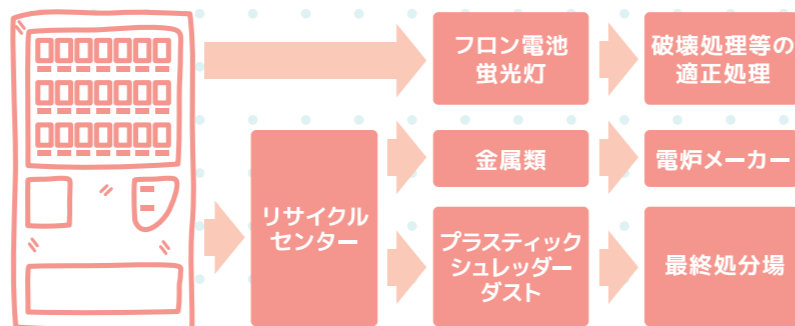
車両ハイブリッド化を推進

当社では、物流拠点の統合や配送ルートの見直しなどによる輸送の効率化やエコドライブの推進・徹底を図ることによって、燃費向上とCO₂排出量削減に取り組んでいます。また、2009年よりハイブリッド車両等の環境配慮型車両の導入を推し進めており、システム全体でCO₂削減5%(2004年比)の目標値を掲げています。



自動販売機の適正処理とリサイクル

自動販売機の廃棄・リサイクルは、法律に基づき「自動販売機マニフェスト」を運用。フロンガス回収や乾電池・蛍光灯に含まれる有害物質を適正処理するなど、環境負荷の軽減に努めています。



サスティナブルパッケージ

おいさを抱くパッケージに求められるのは才色兼備であること。ココ・コーラシステムでは、FUN(楽しさ)のあるデザインを追求するとともに、持続可能な容器という意味の世界共通コンセプト「サスティナブル・パッケージ」を掲げ、環境にも人にも優しい容器開発の実現に取り組んでいます。



ECOなPETボトル「プラントボトル」

プラントボトルとは、植物由来の素材の一部(5~30%)に使用した国内製造のPETボトルです。素材の一部を植物由来とすることで、非再生資源である石油への依存を低減し、かつ、今までのPETボトルと同様に既存のPETボトルリサイクル工場で100%リサイクルが可能です。「い・ろ・は・す」ブランド全製品に使用されており、環境負荷の低減に貢献しています。



ゼロエミッションに挑戦!

おいしいひと時を彩るコーヒーやお茶の製造過程で生まれる「コーヒーかす」や「お茶かす」を、農作物の生育に使う堆肥などとしてほぼ100%再資源化し、循環型社会に役立つべく努めています。



グリーン調達製品(再生品)の活用

ユニフォームや空容器回収ボックスなどの販売資材、ボールペンやバインダーなどの広告資材(ノベルティ)に、PETボトルのリサイクル製品を活用しています。



「い・ろ・は・す」地元の水「応援プロジェクト」でサポート! NPO法人おきなわ環境クラブ

沖縄ココ・コーラボトリングは、沖縄の自然と環境の保全をめざし、水辺の緑化、マングローブ希少種の保全と再生、学校等への環境教育プログラムの提供、環境保全に係る人材育成、観光と環境に係る国際協力(JICA 沖縄国際センター受託事業)など、沖縄から人と地球のよりよい関係を実現しようと多彩な活動を展開しているおきなわ環境クラブをバックアップしています。



NPO法人おきなわ環境クラブホームページ <http://www.npo-oec.com/>

次世代を担う子どもたちの「今」を

熱くバックアップ!

子どもたちの「今」は明日のおつきな夢につながる大切な時間なんだよね! 沖縄ココ・コーラボトリングはいろんなカタチで大切な今を応援してるんだね!



食育支援プログラム

子どもたちが健康に育つことを応援するために、ココ・コーラシステムでは食育にも積極的に取り組んでいます。沖縄ココ・コーラボトリング販売エリアでも2006年より、体操のお兄さんとおなじみの佐藤弘道さんとQoo(クー)が「ちゃんと食べよう体操」を展開。親子で食の大切さについて楽しく学んでいきます。



2013年5月6日(月) サンエー具志川メインシティ

「ちゃんと食べよう体操」の県内活動のあゆみ

年度	実施内容	備考
2006年	DVD教材の寄贈開始	県内保育園、幼稚園、小学校など
2007年	全国で体操教室の展開	全国の量販店10ヶ所で開催
2008年	コンテストの開催・受賞先の訪問	名護市あい保育園
2009年	地域とタイアップした食育イベントの展開	那覇市繁多川自治会・公民館
2010年	企業・スポーツ団体とのタイアップを展開	サンエー具志川メインシティ 県サッカー協会キッズ委員会
2011年	企業とタイアップした食育イベントの展開	サンエー経塚シティ・那覇メインプレイス
2012年	企業とタイアップした食育イベントの展開	サンエー宜野湾コンベンションシティ
2013年	企業とタイアップした食育イベントの展開	サンエー具志川メインシティ

[Qoo(クー)「ちゃんと食べよう体操」]ホームページ <http://qoo.jp/asobo/taiso/>

第20回ココ・コーラ環境教育賞

「公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団」では、環境ボランティア活動の助成・支援を通して、環境教育・環境保全活動の促進を目的に創設。2013年は、応募総数155団体から、先祖から受け継いだサンゴ礁を財産とし、地域全体で保全と活用による村づくりを推進している「白保魚漁く海保全協議会」が活動表彰部門で大賞を、絶滅危惧種ヤンバルクイナの音環境と生息域との因果関係に関する調査を実施した「国立沖縄工業高等専門学校」が次世代支援部門で優秀賞を受賞しました。



第20回「活動表彰部門」大賞 白保魚漁く海保全協議会

開催年度	受賞団体(個人)	賞
2004年(第11回)	那覇市立小塚小学校	奨励賞
2005年(第12回)	さんごとプロッコリの森自然学校	環境教育賞
2006年(第13回)	県立辺土名高等学校	環境教育賞
2007年(第14回)	うるま市立宮城中学校	環境教育賞
	嘉陽宗幸様	主催者賞
2008年(第15回)	国頭村立安田小学校	奨励賞
2009年(第16回)	喜瀬武原小中学校	優秀賞
	西表ヤマネコクラブ	優秀賞
2010年(第17回)	県立宮古総合実業高等学校	大賞
	久米島 ホタルの会	優秀賞
2011年(第18回)	浦添市立港川小学校	大賞
2012年(第19回)	名護市立屋我地中学校	優秀賞
	白保魚漁く海保全協議会	大賞
2013年(第20回)	国立沖縄工業高等専門学校	優秀賞

公益財団法人ココ・コーラ教育・環境財団ホームページ <http://www.cocacola-zaidan.jp/>

社会人講師活用型教育支援プログラム

「おきなわアジェンダ21県民会議」の理科授業支援プログラムに、当社社員が講師として協力しています。2013年は、八重瀬町の小学校にて「ものの溶け方」についての授業を実施。身近なもので炭酸水を作る体験に、子どもたちは興味津々でした。

平成25年度訪問学校	学年	クラス数	実施月日
八重瀬町立新城小学校	5年生	1クラス	2月15日

※2008年から2010年は経済産業省の委託事業として実施



ココ・コーラ出前かけっこ教室



「公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団」では、子どもたちへかけっこの魅力を伝え、運動習慣へと導き、健康な身体づくりにつなげようと、全国で出前かけっこ教室を開催しています。2014年2月には久米島の清水小学校で開催され、子どもたちは走るの楽しさを学びました。

高円宮杯 全日本中学校英語弁論大会



第65回沖縄地区大会
最優秀賞 大城聡子さん 高嶺中学校3年
優秀賞 伊良部理乃さん 西原東中学校3年
優秀賞 上江洲まり子さん 沖縄カトリック中学校3年

ココ・コーラシステムで協賛している、全日本中学英語弁論大会は、国際性豊かな青少年育成のため、英語力の向上を推進する大会です。当社では沖縄県予選の運営費や県代表の派遣費等、一部補助を行っています。第65回中央大会は、2013年11月に東京にて開催され、南部日本地区代表40人で競う決勝予選大会を突破した上江洲まりのさんが出場しました。

ココ・コーラ復興支援基金

ココ・コーラシステムでは、東日本大震災で被災した東北3県の高校生を対象に、米国でのホームステイ研修プログラムを実施しており、2013年は119人を送り出しました。また秋には、(音楽を活動の柱とする)米国の「ヤングアメリカンズ」と子どもたちが織りなす歌とダンスのショー「ヤングアメリカンズ東北ツアー2013」(実施:じぶん未来クラブ)を支援しました。沖縄ココ・コーラボトリングは、ココ・コーラシステムの一員として、これらのプログラムを通じて復興を支援しています。



全肢連への支援活動



2013年7月29日(日)さむやかしクリエーション/西原マリノパークにて実施

ココ・コーラシステムで1980年より「一般社団法人 全国肢体不自由児・者父母の会連合会」(全肢連)と協力。以来、沖縄ココ・コーラボトリングも売り上げの一部が活動資金に運用される支援自動販売機の設置を推進しています。2013年は「全肢連全国大会」が沖縄県で開催され、ココ・コーラならではのアトラクションで大会を支援しました。



このステッカーを貼り付けた自動販売機でココ・コーラ社製品を購入すると、売上金の一部が全肢連へ寄付されます。

インターンシップ(職場体験学習)

当社では、職場体験を通して若い世代が社会人としての素養を培う機会を提供しようと、高校生を中心に、学生が企業で就業体験を行うインターンシップを受け入れています。



「世界青年の船事業」寄港地協力



日本の青年約110名と世界10ヶ国の青年95名が船上共同生活を実施。東南アジア諸国や日本国内に寄港し、見聞を広めながら世界的視野に立ち、共通課題の研究・討論・各種の講義・自国文化の紹介やクラブ活動を行う内閣府のプログラムです。寄港地の沖縄で、当社と企業の社会貢献について意見交換し、災害支援自動販売機の見学を行いました。

インターハイ応援プログラム



アケエリ杯授賞式 2013年5月31日

ココ・コーラシステムは、スポーツを通して青少年の健全な育成を行うことを目的に、1993年から20年にわたり、「全国高等学校総合体育大会」を応援してきました。2013年、沖縄ココ・コーラボトリングでは、急激に気温が上昇する5月にスタートした「2013未来をつなぐ北部九州総体」の沖縄県予選大会を、熱中症の危機管理の観点からバックアップしました。出場する全69校の高等学校に、総合開会式が行われた県総合運動公園において、水分補給とエネルギー補給が可能なWチャージ機能を持つ「アクエリアス」を寄贈。水分補給を通してインターハイを盛り上げ、参加選手を支援しました。

スポーツも! イベントも! 笑顔が生まれる

時を心から応援



NAHAマラソン

2万人余のランナーが参加する日本を代表する市民マラソン『NAHA マラソン』は1985年、那覇市とホノルル市の姉妹都市締結25周年を記念してスタート。昨年12月1日(日)開催の第29回大会は県内外合わせて31,170名がエントリーしました。当社は第1回大会から継続して応援しています。



沖縄全島エイサーまつり

毎年旧盆明けの最初の週末に開催される県内最大級のエイサーイベント。当社は1956年のコザ市誕生を機に始まった前身イベント「全島エイサーコンクール」の時代からずっとサポートしています。



主な地域イベント協賛実績

イベント名	協賛開始年	備考
沖縄全島エイサーまつり	昭和43年(1968)	第13回大会より協賛
那覇大綱焼(那覇まつり)	昭和46年(1971)	第1回大会より協賛
那覇ハーレー	昭和50年(1975)	60年ぶり復活 第1回大会より協賛
浦添でだこまつり	昭和54年(1979)	第1回大会より協賛
海洋博公園花火大会	昭和54年(1979)	第1回大会より協賛
とみぐすく祭り	昭和56年(1981)	第1回大会より協賛
与那原まつり	昭和58年(1983)	第1回大会より協賛
ピースフルラブ・ロックフェスティバル	昭和58年(1983)	第1回大会より協賛
シーボートちゃんカーニバル	昭和62年(1987)	第1回大会より協賛
うるま市エイサーまつり	平成18年(2006)	第1回大会より協賛
読谷まつり	糸満ハーレー	
沖縄こどもの国フェスティバル	なは青年祭	

主なスポーツイベント協賛実績

大会名	協力開始年	備考
全日本少年サッカー大会	昭和52年(1977)	特別協賛
NAHAマラソン	昭和60年(1985)	第1回大会より協賛
全日本トライアスロン宮古島大会	昭和62年(1987)	第3回大会より協賛
石垣島トライアスロン大会	昭和62年(1987)	第1回大会より協賛
いげな88トライアスロン大会	昭和63年(1988)	第1回大会より協賛
なんぶトリマラソン大会	昭和63年(1988)	第1回大会より協賛
ツール・ド・おきなわ	平成元年(1989)	第1回大会より協賛
中部トリマラソン	平成元年(1989)	第1回大会より協賛
久米島マラソン	平成元年(1989)	第1回大会より協賛
宮古島100kmワイドマラソン	平成3年(1991)	第1回大会より協賛
全国高等学校総合体育大会(インターハイ)	平成5年(1993)	ボトラー公式スポンサー
おきなわマラソン	平成5年(1993)	第1回大会より協賛
伊江島一周マラソン大会	平成5年(1993)	第1回大会より協賛
伊平屋ムーンライトマラソン	平成6年(1994)	第1回大会より協賛
石垣島マラソン大会	平成7年(1995)	第1回大会より協賛
石垣トライアスロンワールドカップ	平成8年(1996)	第1回大会より協賛
あやはし海中ロードレース	平成13年(2001)	第1回大会より協賛
尚志ハーフマラソンin南城市	平成14年(2002)	第1回大会より協賛

その他清掃活動の参加



主な環境保全・清掃活動への参加実績

事業・イベント名	実施・協力開始年	備考
530(ごみゼロ)の日	平成2年(1990)	那覇市環境活動への協力・参加
空き缶回収キャンペーン	平成10年(1998)	「Yes!リサイクル! No!ポイ捨て!」の啓蒙活動
牧港川クリーンアップ作戦	平成14年(2002)	第1回活動より協賛
漫湖チュラカーギ作戦	平成18年(2006)	清掃活動参加
グリーンボード支援	平成20年(2008)	沖縄支部への支援開始



グリーンボード支援・協働清掃活動

コカ・コーラシステムでは、街の清掃を全国で実施している「NPO法人 グリーンボード」を2008年よりバックアップしています。当社も沖縄県内各支部が清掃活動を行う際には、積極的に参加・支援を行い、わたしたちの島のクリーンアップに協力しています。

グリーンボード名護支部 2013年6月19日(水)
羽地中2年生107名の皆さんとともに

災害対応型自動販売機

災害時に活躍する自動販売機

コカ・コーラシステムでは、大地震などの災害によりライフラインが被害を受けた際、清涼飲料水を無償で提供できる「災害対応型自動販売機」を設置しています。各自治体との「災害時における救援物資提供に関する協定」を締結し、県内では累計31台（2014年3月現在）を住民の避難場所となる施設を中心に設置。東日本大震災の際には全国で約400台が稼働して災害の現場で役立ち、県内においても津波による避難指示が発表された際、与那原町と沖縄市の災害対応型自動販売機にて当社製品の無償提供が行われました。



久米島町災害対応型自動販売機



浦添市災害対応型自動販売機

災害対応型自動販売機による地域支援の仕組み



災害対応型自動販売機設置自治体マップ

自治体・団体名	設置台数	設置先
① 糸満市	1台	本庁舎入口前
② 南城市	2台	本庁舎・大里庁舎入口前
③ 与那原町	1台	本庁舎入口前
④ 南風原町	1台	本庁舎入口前
⑤ 豊見城市	2台	本庁舎1F・中央公民館
⑥ 那覇市	1台	本庁舎1F
⑦ 那覇市社会福祉協議会	1台	那覇市社会福祉センター玄関
⑧ 浦添市	3台	本庁舎中庭・内閣消防署・総合運動公園
⑨ 浦添総合病院	1台	3階休憩室
⑩ 宜野湾市	1台	本庁舎裏側入口前
⑪ 中城村	1台	本庁舎
⑫ 沖縄市	1台	本庁舎入口前
⑬ 中部福祉保健所	1台	中部合同庁舎福祉保険棟内
⑭ 北谷町	1台	北谷町老人福祉センター前
⑮ 嘉手納	1台	本庁舎入口前駐車場
⑯ 読谷村	1台	本庁舎1F
⑰ 読谷村社会福祉協議会	1台	読谷村総合福祉センター内
⑱ 恩納村	2台	本庁舎入口前・多目的運動場
⑲ 金武町	1台	本庁舎近く保険施設前
⑳ 宜野座村	1台	本庁舎駐車場
㉑ 大宜味村	1台	本庁舎入口横
㉒ 今帰仁村	1台	本庁舎入口前
㉓ 東村	1台	本庁舎駐車場
㉔ 久米島町	1台	久米島シーサイドパークゴルフ場内
㉕ 県産業支援センター	1台	沖縄県産業振興センター内
㉖ 赤十字社	1台	赤十字社沖縄県支部内



※設置台数は2014年3月現在です。

地域貢献型自動販売機 1本からはじまる支援の輪

聞き手
CSR推進課専門課長 比嘉まゆみ
一般社団法人 沖縄県肢体不自由児・者
父母の会連合会 事務局 宮城稲子さん



支援
パートナーを
訪ねて

コカ・コーラでは、わたしたちにできることをすすめるというシンプルなコンセプトの下、今日よりも明日、みんなが住みよく暮らせる社会をつくるため、さまざまに動いています。地域貢献型自動販売機もその一例。今回は連携団体である沖縄県肢体不自由児・者父母の会連合会（沖肢連）との活動をご紹介します。

沖肢連は、1980年に活動をスタートし、以来、沖縄コカ・コーラボトリングがバックアップを続けてきました。「コカ・コーラさんは、いつも自分のこととして沖肢連のことを深く考えてくださいます」と宮城さん。その言葉を受けて「お互い様だと思っています。いつ私や私の家族がどなたかのお世話になるかわからないじゃないですか」と比嘉が答え、さらに「コカ・コーラの地域貢献型自動販売機もそのお互い様精神からスタートしていて、しばしのブレイクタイムに、コカ・コーラ社製品をお買い上げいただいたお客様に、売上げの一部をご協力いただこうというものです。」と続けました。宮城さんは「沖肢連は、沖縄コカ・コーラボトリングの支援のお陰で団体の活動がスムーズに運んでいる

といっても過言ではありません。2013年に沖縄で開催された全国大会も多大な協力を頂き無事成功させていただきました。」と、感謝の言葉で締めくくられました。



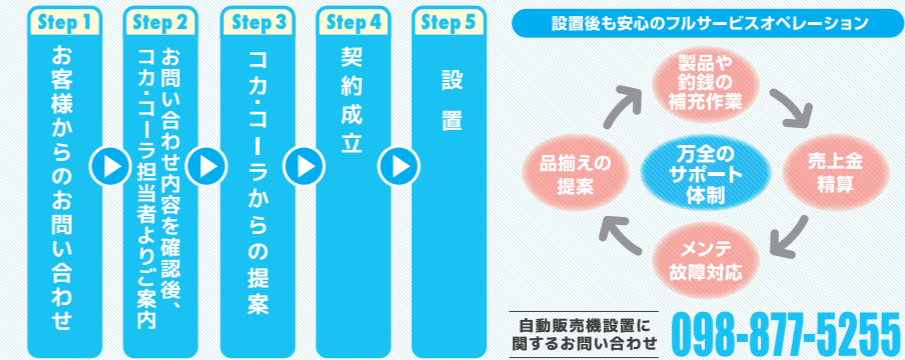
地域貢献型自動販売機による地域支援活動の仕組み



地域貢献型自動販売機は、コカ・コーラ社製品の購入することによって、手軽に参加できる地域貢献です。売上げの一部は、地域のさまざまな社会貢献事業やイベント、スポーツ団体の活動資金、ヤンバルクイナ等の野生生物の保護事業資金として還元しています。県内には約170台（2014年3月現在）の地域貢献型自動販売機が設置され、お客様とともに地域社会を応援しています。

自動販売機設置のご案内







当社では、自動販売機の設置に関する各種ご相談から設置に至るまでのコンサルティング、設置した後の飲料補充や機器メンテナンスなどオペレーションサービスの提供と、自動販売機にまつわる主要なサービスをワンストップで提供しています。



主な地域貢献型自動販売機展開状況





地域貢献型自動販売機名称	設置日	設置台数
全国肢体不自由児・者父母の会連合会 支援自動販売機	1980年～	37台
夢の貯金箱支援自動販売機	2004年3月～	5台
ボウリング協会支援自動販売機	2006年4月～	9台
沖縄全島エイサーまつり支援自動販売機	2006年5月～	33台
総合型スポーツクラブ支援自動販売機	2006年12月～	6台
ヤンバルクイナ保護応援自動販売機	2007年11月～	43台
サンゴ保護支援自動販売機	2008年5月～	2台
沖縄県サッカー協会支援自動販売機	2009年10月～	1台
ピンクリボン支援自動販売機	2010年10月～	10台
琉球水難救済会支援自動販売機	2011年2月～	9台
メッシュサポート支援自動販売機	2011年4月～	22台
日本赤十字社支援自動販売機	2011年10月～	17台
日本財団 渚の交響支援自動販売機	2012年4月～	8台
ビーチサッカー支援自動販売機	2012年8月～	38台
赤土流出防止グリーンベルト植栽自動販売機	2013年3月～	7台
龍船協会支援自動販売機	2013年4月～	1台
飲酒運転撲滅支援自動販売機	2013年9月～	3台

※設置台数は2014年3月現在です。

1946	1946 ~ 1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1946 ●CCEC沖縄工場建設 (現:当社浦添工場) ●コカ・コーラレギュラーサイズ米軍需要向け製造販売開始 	1951 ●全国より6年早く国際商社各名社が民間需要向け販売開始 1956 ●沖縄ソフトドリンクス創立翌年、国際商事を吸収合併 	1968 ●沖縄コカ・コーラボトリング誕生 (資本金50万ドル) ●高梨三郎氏が継承を決定 ●初の消費者プロモーション実施 ●県内行事へ積極的な協賛開始 	1969 ●ビッグビッグプレゼントプロモーション実施 	1970 ●資本金100万ドルに増資 1972 ●通貨交換により資本金100万ドルを3億5000万円に切替 	1971 ●具志川営業所開設 1973 ●那覇営業所開設 [現:豊見城営業所] 1974 ●浦添営業所開設 1975 ●ヨーヨープロモーション実施 1976 ●名護営業所開設 	1978 ●創立10周年記念式典 	1980 ●1Lサイズ製造ラインを設置 1981 ●コカ・コーラポストミックスシロップタンク製品製造開始 1983 ●共同出資会社、沖縄カナダドライ(株)設立 [現:(株)琉仁カスタマーサービス] 1984 ●中城営業所開設 [現:中部営業所] 	1985 ●炭酸缶製造ラインを設置 1986 ●炭酸PET製造ラインを設置 ●果汁PET製造ラインを設置 	1989 ●第1回セールスコンベンション開催 1990 ●新営業本部事務所新設 															
1946 ●琉球政府発足 1948 ●全琉日円に統一 	1952 ●日の丸限定的掲揚許可 1958 ●B円からドル時代へ 1965 ●佐藤首相来沖 1967 ●大城立裕氏「カクテルパーティー」で沖縄初の芥川賞 1968 ●主権選挙に革新屋良朝臣氏当選 	1970 ●戦後初の国会議員選挙実施 1972 ●本土復帰トルから円へ 1973 ●復帰記念若夏特別国体 1975 ●海洋博覧会 	1978 ●西銘保守興政スタート ●交通方法変更(730) 1981 ●ヤンバルクイナ発見 1985 ●豊原焼、金城次郎氏県内初の人間国宝 1987 ●海邦国体 	1990 ●太田知事誕生、12年ぶりの革新政権 ●沖縄水産高校甲子園準優勝 																				
1951 ●対日講和条約日米安保条約調印 1953 ●NHK、民放テレビ放送開始 1956 ●東京飲料(株)創業 (現:東京コカ・コーラ) 	1960 ●池田内閣成立、所得倍増論 1964 ●東京オリンピック 	1969 ●アポロ11号月面着陸 1970 ●大阪万博 	1971 ●ドルショック、円切上げ 1973 ●第一次オイルショック 1976 ●ベトナム戦争終結 	1978 ●第二次オイルショック ●東京サミット開催 1982 ●中曽根内閣誕生 1984 ●ロサンゼルスオリンピック ●グリコ森永事件 1985 ●日米貿易摩擦激化する 1986 ●コカ・コーラ100周年 	1989 ●昭和天皇崩御 ●3%消費増税導入 1990 ●株価暴落/バブル経済に急襲 ●東西ドイツ統一 																			

Coca-Cola 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社の歴史

68年にわたり郷土とともに歩み続けてきた沖縄のコカ・コーラの歴史。時代のニーズに合わせて、県民の皆様に爽やかなひとときをお届けし続けています。※パッケージの表示がない商品は、多様なパッケージが発売されました。

1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
1991 ●玉城営業所開設 ●那覇営業所を豊見城営業所に改名 	1992 ●コカ・コーラ2L PET 1993 ●ファンタグレープ1.5L PET ●タブ・クリア350ml缶 ●紅茶花伝ミルクティー340ml缶 1994 ●ファンタグレープ1.5L PET ●タブ・クリア350ml缶 ●紅茶花伝ミルクティー340ml缶 	1993 ●創立25周年 	1995 ●資本金を5億3500万円に増資 (株)琉仁カスタマーサービスの全株式を取得 1997 ●名護営業所を建替え 1999 ●業務センター配送センター新設 	1998 ●創立30周年 	2001 ●工場ISO9001:2000取得 	2002 ●物流本部新設 2003 ●チェーンストア営業部新設 ●eKシステム導入 2004 ●新札対応ビルバリア交換 	2006 ●コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト開始 植樹約2,000本 2007 ●コカ・コーラゼロ ●ノーカーロリーコカ・コーラ ●コカ・コーラ250ml缶「沖縄限定デザイン缶」 	2008 ●創立40周年 ●日本コカ・コーラ代表取締役社長「タニエリ」セイター氏来社 ●災害対応型自動販売機設置「地域協定を締結」 ●ハイブリッドルートカー導入 ●災害対応型自動販売機設置「地域協定を締結」 那覇市、南風原町、宜野座村 	2009 ●新事務所・倉庫棟完成 ●2008年売上伸張全国1位 ●ボトラーアワード受賞 ●ハイブリッドルートカー導入 ●災害対応型自動販売機設置「地域協定を締結」 那覇市 	2010 ●ISO10002:2004品質マネジメント適合評価(第三者評価) ●災害対応型自動販売機設置「地域協定を締結」 那覇市 	2011 ●ISO14001:2010環境マネジメントシステム認証(工場・本社) 2012 ●うるま営業所開設 ●物流改革による倉庫増築 	2013 ●ボトラーアワード受賞 (SCM原液需要予測最優秀賞) 2014 ●2013年売上伸張全国1位ボトラーアワード受賞 											
1991 ●コカ・コーラ2L PET 1992 ●コカ・コーラ350ml缶「首里城復元記念缶」 ●ミナクア名水めぐり2L PET 1994 ●茶流彩彩ゴーヤ茶 1995 ●茶流彩彩爽健美茶2L PET ●ロイヤルミルクティー500mlPET 	2001 ●茶流彩彩さんびん茶 2005 ●コカ・コーラレモン 2006 ●コカ・コーラプラス ●一(はじめ)茶花 ●ファンタふるふるシェイカー 	2007 ●コカ・コーラゼロ ●ノーカーロリーコカ・コーラ ●コカ・コーラ250ml缶「沖縄限定デザイン缶」 2008 ●コカ・コーラプラス ●一(はじめ)茶花 ●ファンタふるふるシェイカー 	2009 ●浦添工場が技術表彰全国総合1位 2010 ●県内製造率80%達成 2011 ●500mlPET統一容器導入 	2012 ●うるま営業所開設 ●物流改革による倉庫増築 2013 ●ボトラーアワード受賞 (SCM原液需要予測最優秀賞) 2014 ●2013年売上伸張全国1位ボトラーアワード受賞 																			
1992 ●復帰20周年 ●首里城復元 1995 ●米兵暴行事件に対する県民総決起大会 1996 ●「象のオリ」不法占拠状態に 	2000 ●九州・沖縄サミット開催 2003 ●ゆいレール発進 2004 ●米軍ヘリ沖国大に墜落 2005 ●うるま市・宮古島市誕生 2006 ●南城市・八重瀬町誕生 	2007 ●教科書検定問題 ●沖縄県立博物館・美術館オープン 2008 ●沖縄尚学高校、春の甲子園2度目のV 2009 ●琉球舞踊が重要無形文化財に指定 ●宮里藍、米ツアー初V 	2010 ●美ら島沖縄総体開催 ●沖縄コカ・コーラ特別協賛 ●南風高校、甲子園春夏連覇の偉業達成 ●沖縄本島地震、99年ぶりの震度5 2011 ●北朝鮮が韓国延坪島を砲撃 ●サッカーW杯、南アフリカ大会日本、決勝トーナメント進出 	2012 ●東京スカイツリーオープン ●ロンドンオリンピック史上最多メダル38個 ●オウム事件終結へ 2013 ●富士山世界文化遺産登録 ●東京オリンピック/パラリンピック2020年開催決定 2014 ●ソチオリンピック開催 																			
1991 ●湾岸戦争、ソ連崩壊 1993 ●Jリーグスタート 1994 ●村山政権誕生 1995 ●オウム事件、関西大震災 	1997 ●消費税5%に 1998 ●日本悲願のW杯初出場 2000 ●イチロー、マリナーズ入団 2001 ●同時多発テロ 2002 ●日韓W杯 	2004 ●アテネオリンピック 2005 ●個人情報保護法 ●耐震偽装問題 2006 ●コカ・コーラ120周年 2007 ●消えた年金問題 	2008 ●米サブプライムローン問題 ●世界的な金融危機に発展 ●北京五輪、競泳北島康介から日本勢活躍 ●コンチアールポトル日本にて立体高橋認定 2009 ●歴史的政権交代鳩山内閣発足 ●裁判員制度開始 	2010 ●東日本大震災 ●なでしこジャパン ●FIFA女子ワールドカップ優勝 ●アナログ放送終了、地デジ移行 2011 ●東日本大震災 ●東京オリンピック/パラリンピック2020年開催決定 2012 ●東京スカイツリーオープン ●ロンドンオリンピック史上最多メダル38個 ●オウム事件終結へ 																			